

中国における障害者人口の実態 ～第2次全国障害者サンプリング調査を通して～*

金 文 華**

The current state of the disabled people in China
:Based on the result of the Second China National Sample Survey (2006-2007)

Jin Wenhua**

キーワード

中国、障害者、第2次全国障害者サンプリング調査、障害種別、出現率、都市部、農村部、年齢構成、家族構成、障害の原因

1. はじめに

中国の障害者の実態をより正確に把握するとともに障害者福祉施策の方向性を定めるため、政府の支援のもと中国残疾人連合会は2006年4月1日を調査基準日として第2次全国障害者サンプリング調査を実施した。しかし、その結果は日本にあまり知られてなく、研究も進んでいない。そのため、本論文は日・中障害者福祉の比較研究のための基礎研究として位置づけ、中国の第2次全国障

害者サンプリング調査結果をもとにその特徴などを明らかにするとともに対応策などを検討することを目的とする。近年、障害者福祉分野においては小地域の国同士の緊密な連携による障害者運動の成果の拡大及び障害者施策の改善が注目されている。障害者権利条約においてもその実現のために国際協力及びその促進が重要であることを認識し、国家間において並びに適当な場合には関連のある国際的及び地域的機関並びに市民社会（特に障害者の組織）と連携して、適当かつ効果的な措置をとる必要があることを訴えている。従って中国の障害者の現状及びその問題点の認識はお互いの成果の共有及び両国の障害者福祉の更なる推進に寄与できる可能性がある。

2. 中国の障害者人口の状況

(1) 中国の障害者人口の総数

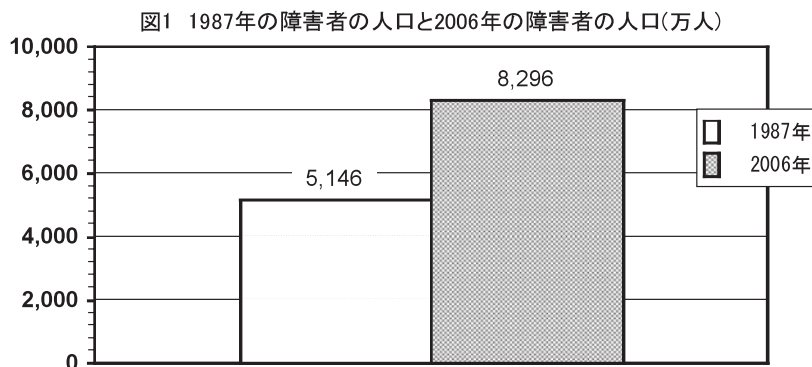


図1のように2006年の第2次全国標本調査結果によると障害者数は8,296万人に上り、1987年の5,146万人に比べて3,132万人増加した。また、人口全体に占める障害者の割合も6.34%で1987年の4.9%より1.44%上昇した。

障害者人口の大幅な増加の原因について田宝・張揚・邱卓英¹らは次のような四つの要因が影響していると指摘している。

一つ目に、人口総数の増加による自然増である。第1次全国標本調査を実施した1987年当時中国の人口は11億未満であったが、2006年の第2次調査時は人口が13億を越え、障害者人口の大幅な増加に影響している。

二つ目に、人口構造の高齢化の影響である。1987年第1次調査時中国における60歳以上の人口の比率は8.5%であったが、2005年には11%へと

* Received February 10, 2009

**長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科、Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1057 Eida, Isahaya, Nagasaki 854-0081, Japan

上昇した。人口高齢化の進展に伴い脳血管疾病、股関節疾患、認知症などの発病率とそれらの疾病による障害の確率が高くなったのである。

三つ目に、障害判定基準と方法の改訂である。今回の調査において最新の国際基準を参考にしながら障害の判定基準と測定方法を中国の事情に合わせて変えた。障害の判定において身体構造を重視するとともに機能障害だけではなく社会適応能力を強調したことが特徴であると言える。肢体不

自由の判定基準については中国の現行の障害判定基準に照らし合わせながら適度に調整を行った。このような一連の修正も障害者人口の大幅な増加に影響していると考えられる。

四つ目に、社会環境要因の影響である。中国の都市化・工業化の急速な進展、頻繁な人口流動、人々の生活テンポの加速化、交通、安全事故、環境汚染なども障害を負うリスクを大幅に増加させたのである。

(2) 中国の障害種別ごとの人口状況

図2 1987年と2006年の障害種別ごとの人口比較 単位:万人

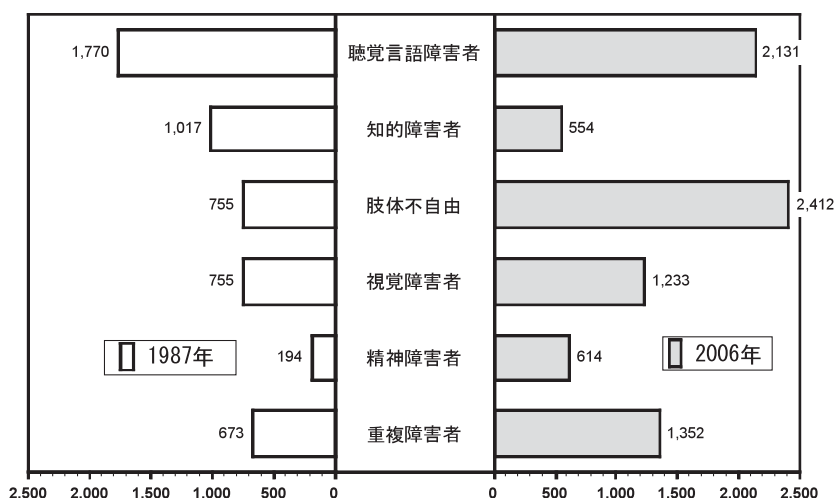


図2のように1987年の第1次全国標本調査結果と2006年第2次全国標本調査結果を比較してみると肢体不自由者、精神障害者が増加し、知的障害者が減少した。

(ア) 肢体不自由者の増加の原因としては次のような要因が考えられる。

- ①人口高齢化の進展に伴って高齢による障害の増加があげられる。1987年に60歳以上の肢体不自由者が肢体不自由者全体の29.5%であったのに対して、2006年調査では44.7%へと上昇したのである。
- ②脳血管、股関節等の疾病の著しい増加が肢体不自由者の発生率の増加をもたらした。
- ③障害判定基準の改訂による変化である。今回の調査で既存の「職工公傷と職業病による障害の判定」、「軍人障害等級判定」、「道路交通事故による障害の判定基準」について適度に調整を行い、第4級つまり軽度障害のなかに4つの種類の新たな障害を加えた。
- ④都市化、工業化の急速な進展による交通、安全事故等による障害が肢体不自由人口の増加に影響をもたらした。

(イ) 知的障害者の増加の原因としては次のような要因が考えられる。

- ①知的障害者の減少の主な要因としては知的障害の判定において、1987年の第1次全国標本調査では単一評価を用いたのに対して、今回はIQと社会適応能力の2重評価を用いたことが影響している。それにより判定基準が厳しくなり判定率に影響を及ぼしたと考えられる。
- ②また、1987年第1次標本調査では認知症の高齢者を知的障害の範疇に入れたが、今回の第2次全国標本調査では精神障害者の範疇に入れたことが知的障害者の減少に大きく影響している。
- ③さらに障害予防策が大きな効果を得られたことが知的障害の減少に影響を及ぼしている。その間中国の社会経済発展と共に栄養条件が著しく改善されるとともに、優生優育、計画的な免疫、健康教育と知識の普及およびヨード補給、水質の改善などの予防措置が大きな効果をもたらしたと思われる。

(ウ) 精神障害者の増加の原因としても知的障害者と同じく人口の増加、判定基準に変更等が影響していることが考えられる。

障害の出現率としては肢体不自由の出現率が一番高く、知的障害と精神障害の出現率が低い状態と（言語障害をのぞく場合）なっている。全体にしめる割合としては肢体不自由が29.7%で一番高く、知的障害者が6.68%、精神障害者が7.40%と低くなっている。

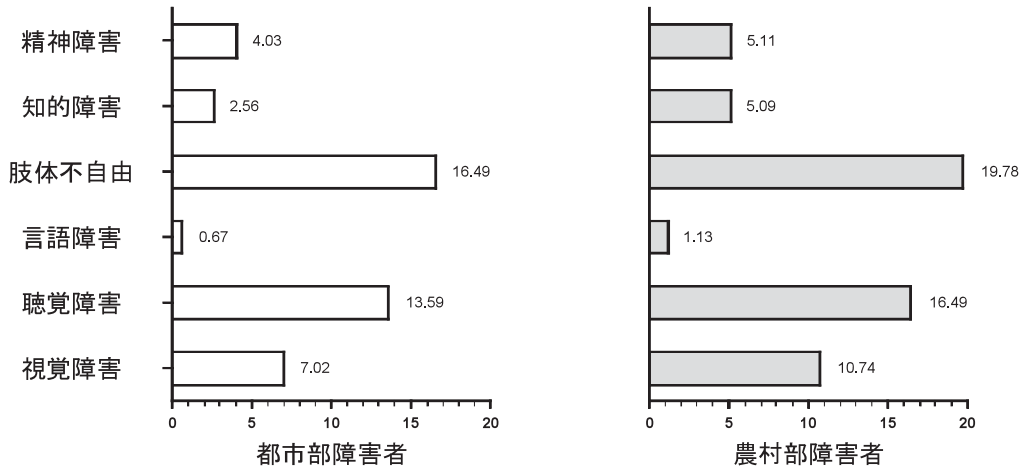
(3) 障害の出現率

①障害種別ごとの出現率

表1 中国の障害種別ごとの出現率及び構成状況

障害種別	人口比 (対千人)	構成状況	
		2006年 (%)	1987年 (%)
視覚障害	9.42	14.86	14.62
聴覚障害	15.30	24.16	34.28 (言語障害を含む)
言語障害	0.97	1.53	
肢体不自由	18.42	29.07	14.62
知的障害	4.23	6.68	19.69
精神障害	4.69	7.40	3.76
重複障害	10.32	16.30	13.03

図8 都市部と農村部障害者の人口比(対千人)



②地域別の出現率

障害者の出現率を見るとすべての障害種別において農村部の出現率が都市部より高い。なか

でも農村部の知的障害者の出現率が都市部より2倍近く高く差が著しい。また、各種別ごとの出現率を見ると都市部と農村部とも肢体不自由

者の出現率が一番高い。

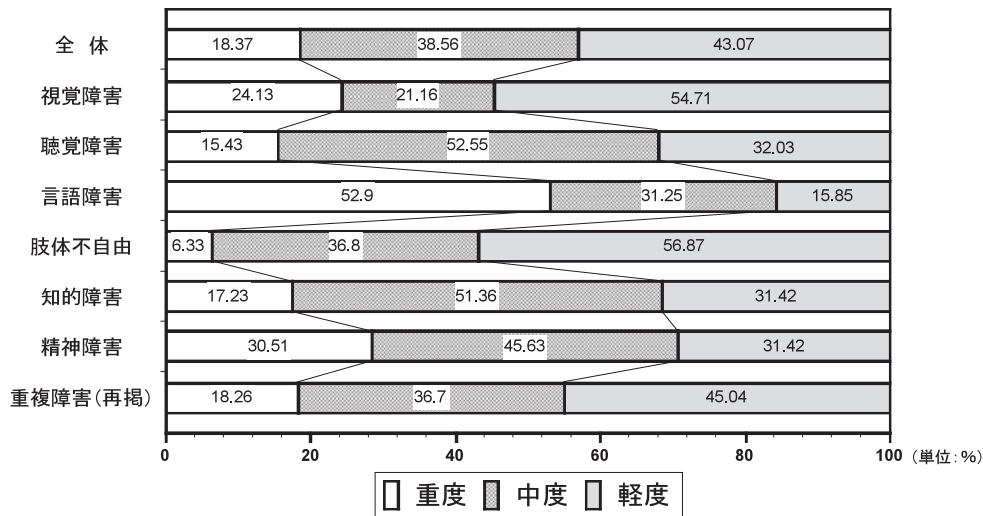
2. 障害程度の構成

2006年の第2次全国障害者サンプリング調査では障害の程度を同一的に1級、2級、3級、4級の4段階に区分して、1級を重度、4級を軽度、2級と3級を中度と分類している。次はこのような分類に沿って障害の程度構成について述べる。

図3のように障害者全体では重度の重度障害者が18.37%と一番少なく、中、軽度の障害者が8

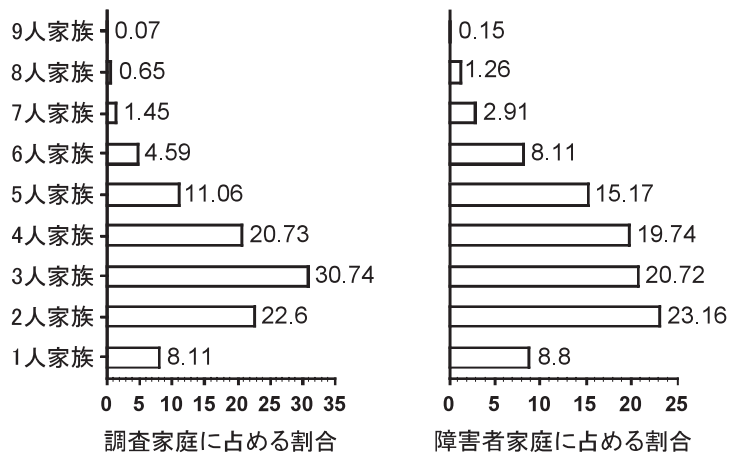
割以上を占めている。障害種別ごとでは言語障害の重度の割合が5割弱を占め一番多く、精神障害者が3割、視覚障害者が2割を越えている。聴覚障害、知的障害、重複障害者の重度が占める割合はいずれも15%以上となっている。肢体不自由者は重度の占める割合が6.33%とその割合が一番低い。言語障害者の重度が占める割合は5割、精神障害者の重度が占める割合は3割以上と重度化が進んでいる。

図3 障害種別ごとの障害程度構成(%)



3. 障害者の家族及び家庭の状況

図4 障害者家庭の家族構成(%)

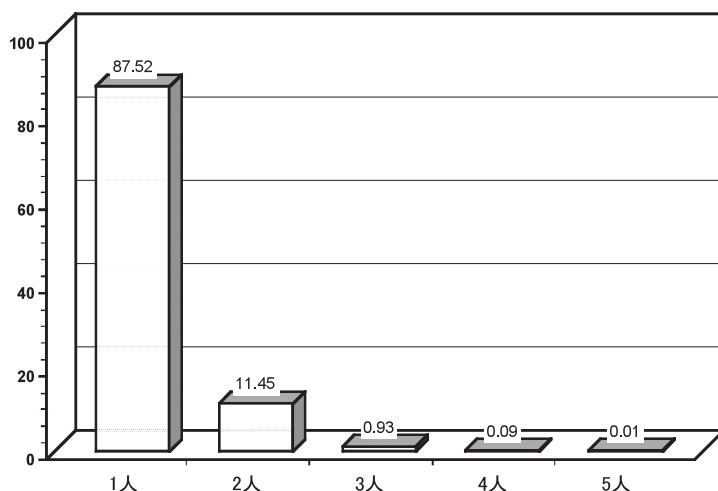


(1) 家庭規模

障害者家庭の家族構成は2人家族が一番多く、次いで3人家族が2割弱、4人家族が2割近く、5人家族が1割以上を占めている。1人家族と6

人家族もそれぞれ8%以上を占めている。7人以上の家族は4%弱を占めている。1人～3人家族が障害者家庭に占める割合は5割以上と核家族化が進んでいる。

図5 障害者家庭における障害者の人数(%)



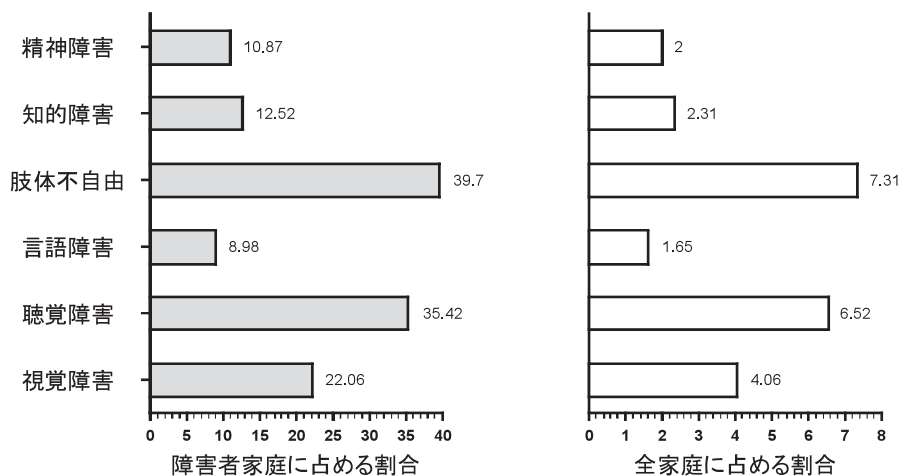
(2) 障害者家庭における障害者の人数

障害者家庭における障害者の人数は1人が9割

近くを占め一番多く、次いで2人が1割弱、3人が1%近く、4人以上が0.1%を占めている。

(3) 障害種別ごとの状況

図6 障害種別ごとの家庭の状況(%)

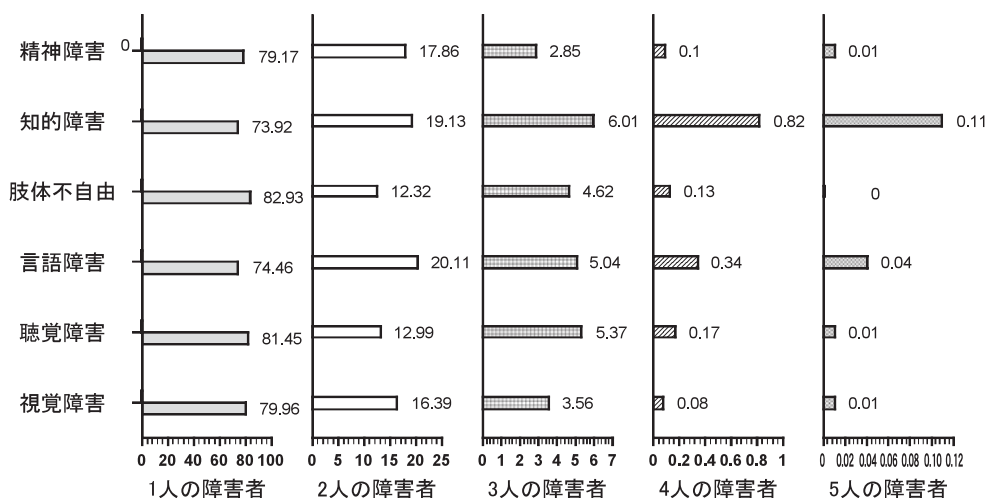


①障害種別ごとの家庭が障害者家庭全体及び全家庭に占める割合
障害者を抱えている家庭が障害者家庭に占める

割合では肢体不自由者を抱えている家庭が一番多く4割近く、聴覚障害者を抱えている家庭が3割以上と多くを占めている。全家庭に占める割合で

も肢体不自由者と聴覚障害者を抱えている家庭が一番多い。

図7 障害者家庭における障害種別ごとの人数の分布状況(%)

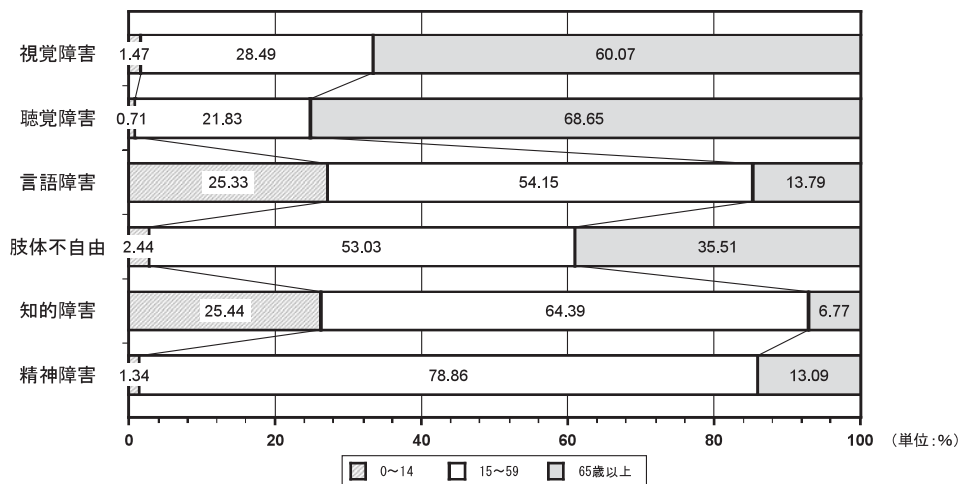


②障害種別ごとの障害者家庭における人数
障害者を抱えている家庭における障害者の人数を見ると、一つの家庭で2人以上の障害者を抱え

ている家庭が各種別とも2割以上を占めている。
2人の障害者を抱えている家庭では言語障害が一番多く、3人以上の障害者を抱えている家庭では

知的障害者が一番多い。

図9 障害種別ごとの年齢分布



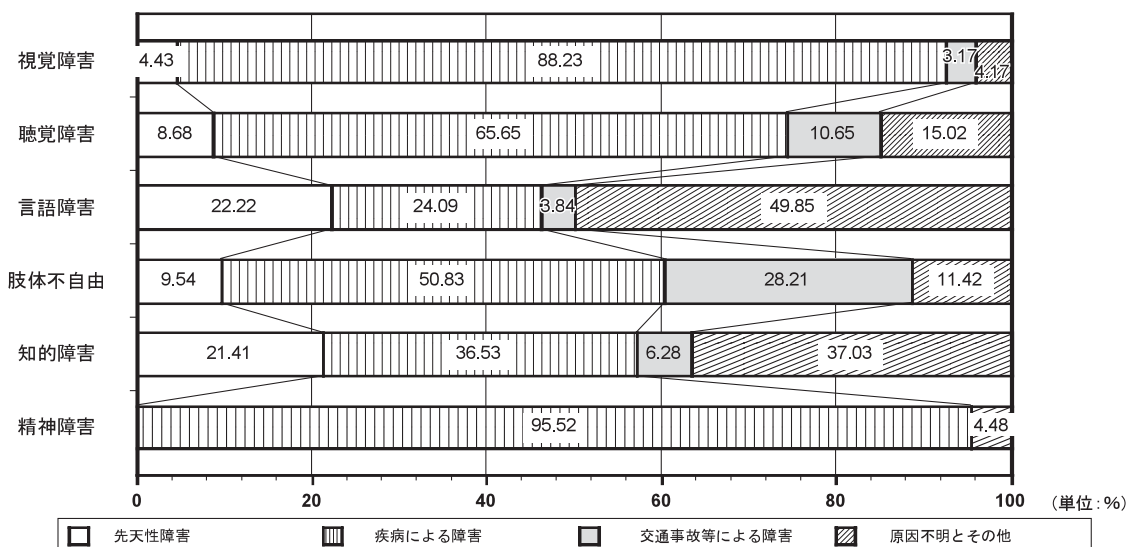
4. 障害者の年齢構成

2006年の第2次全国標本調査結果によると60歳以上の障害者は4,416万人で、全体の53.24%（65歳以上の障害者人口は3,755万人で全体の45.26%）を占めている。これは1987年の第1次全国標本調査時の2,051万人に比べて2,365万人増加したこと

になる。また、60歳以上の障害者人口は新しく増加した障害者数の75.5%を占めており、障害者人口の高齢化が急速に進んでいることを表している²。そのなかでも視覚障害者と聴覚障害者の65歳以上が占める割合が6割以上と高齢化が特に深刻である。肢体不自由者の65歳以上が占める割合も3割

以上となっている。

図10 障害者種別ごとの障害原因構成



5. 障害の主な原因と特徴

全体としては疾病による障害が一番多い。言語障害と知的障害は先天性障害がそれぞれ2割弱を占めている。また、原因不明とその他が言語障害者では5割近く、知的障害者では3割以上を占めておりその割合が高くなっている。

6. 考察

中国における障害者の実態についての分析を通して、いくつかの特徴、傾向が明らかになった。次はそのような特徴、傾向を確認しながら今後整備・充実していく必要がある施策を考えていきたい。

第一に、障害者の人口は全体数の増加だけでなく、障害種別ごとの人口の変動もあり、障害の判定基準、社会的要因が大きく影響していることが明らかになった。生活の支援を重視した障害の判定基準の適用と社会的変動に伴う様々なニーズに柔軟に対応するための支援体制整備が課題となっている。特にそのニーズをキャッチし他の機関との連携を図りながら支援を展開できる専門家の配置などが課題であると思われる。障害者の地域別出現率ではすべての障害種別において農村部の出現率が都市部より高い。なかでも農村部の知的障害者の出現率が都市部より2倍近く高い。また、各種別ごとの出現率を見ると都市部と農村部とも肢体不自由者の出現率が一番高いのが明らかになった。障害者の出現率が高い中国農村部での生活は都市部より多くの障壁があり、社会保障、保健福祉サービス等あらゆる分野における都市部との格差をなくすために努力する必要がある。

第二、障害程度においては、全体的には重度障害者が占める割合が比較的少ないものの、言語障害者のなかで重度が占める割合は5割、精神障害者のなかで重度が占める割合は3割以上と重度化が進んでいることが明らかになった。現在、中国には地域で暮している重度障害者を対象としたサービスがほとんどない。言語障害及び精神障害を重点としながらも他の種別の重度障害者も視野に入れた地域における支援体制整備が必要である。

第三、家族の状況においては1人～3人家族が障害者家庭に占める割合が5割以上で核家族化が進んでいることが明らかになった。障害種別ごとにみると、一つの家庭に2人以上の障害者を抱えている家庭が各種別とも2割以上を占めている。そのなかでも2人以上の知的障害を抱えている家庭が知的障害者家庭で占める割合が一番高い。障害者家庭のなかには2人以上の障害者を抱えている家庭が1割以上で家庭の精神面、経済面などの過重な負担が窺える。経済的保障、介護等様々な方面から家族を支援する施策の充実が必要である。

第四、障害者の年齢構成では65歳以上の障害者人口が3,755万人と全体の45.26%を占め、高齢化が進んでいることが明らかになった。特に視覚障害者と聴覚障害者の場合65歳以上が占める割合が6割以上と高齢化が深刻である。先進国の経験を参考にしながらも自分の国に合った高齢化に対応した方策をいち早く展開する必要があると思われる。

第五、障害の主な原因としては疾病による障害が一番多い。一方、言語障害では5割近く、知的障害では4割近くが原因不明・その他であること、

また言語障害と知的障害の先天性障害が占める割合が2割以上となっていることが明らかになった。保健医療知識の普及などをさらに進めるとともに、保健医療施策の充実により早期発見と早期支援を図る必要があると思われる。

参考文献

- 1) 第2次全国残疾人サンプル調査事務局、北京
大学人口研究所鄧朴方等著「第2次全国残疾人
サンプル調査データ分析報告」華夏出版社
2008年1月
- 2) 中国国家统计局第2次全国障害者標本調査リー
ドチーム編「第2次全国障害者サンプル調査
の主なデータ公報」『中国残疾人』2007年6
期

註

- 1 2007年第8期「中国特殊教育『2回の全国障
害者標本調査の主な数字の比較と分析』」田
宝・張揚・邱卓英著 54頁～56頁
- 2 中国国家统计局第2次全国障害者標本調査リー
ドチーム編「第2次全国障害者標本調査の主
なデータ公報」中国残疾人連合会編集「中国
残疾人」2007年6期12頁～13頁